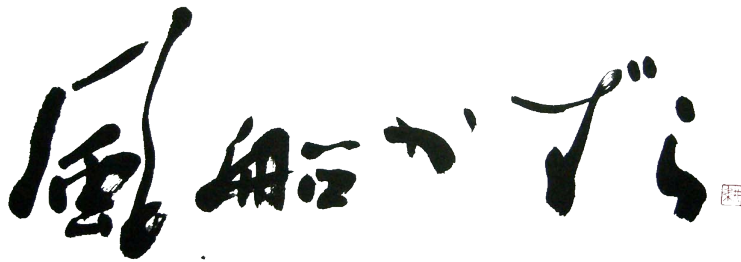


放送大学浜松同窓会



第8号

発行: 放送大学浜松同窓会
編集: 浜松事務局
発行責任者: 仲塚とし子
発行: 平成26年3月31日

題字は松下安延氏(雅号耕山)

seeds of heart

放送大学同窓会連合会 <http://rengokai.ouj-dosokai.net/>放送大学浜松同窓会 <http://hdosokai.web.fc2.com/>浜松サテライトスペース <http://1hamaouj.web.fc2.com/>

「学び続ける」

放送大学客員准教授 渡邊 志

私は2013年4月より放送大学にお世話になっておりますので、この3月で丁度一年が過ぎようとしております。月並みですが、月日が過ぎていく速さを実感しつつ、本務校(静岡産業大学情報学部)ならびに放送大学における毎日の教育研究に励んでおります。

本日までの間、浜松サテライトにおける面接授業やセミナーなどを通じまして、学問に対する皆さまの真摯な姿勢を見聞してきまして、私自身も大いに刺激を受けて、学ぶことができいております。皆さまに感謝の意を表したく存じます。誠にありがとうございます。

さて、皆さまは、放送大学とはどのように出会い、どうして本学で学ぼうと決意なさったのでしょうか。これは、私が皆さまに大にお尋ねしたいことなのです。

それはなぜかと言いますと、私の経歴に起因しているのです。少し私の経歴をお話しさせていただきますと、私は大学(専攻:工学部工業化学科)を卒業後、高校に奉職し、10年程勤務いたしました。そして、その間に大学での専攻とは違う分野である「情報」の教員免許状を取得するという出来事がありました。このことをきっかけとして、私は、「情報」を専門的に学んで、「情報」の専修免許状(大学院修士課程で取得できる)を取得してみようと考えようになりました。そこから、結果的に博士課程まで進むことになった大学院(出身大学と別。専攻も大学在学時とは異なる情報システム)の門をたたいた、ということになりました。

しかも、仕事(高校教員)を持ったままで、大学院で学ぼうとしたのです。つまり、私の大学院における「学生生活」は「社会人学生」だったのです。具体的には、日常はインターネット等を通じた遠隔学習により、所用の単位を取得していきました。それらに加え、長期休業中等、時折大学院に「通学」し、指導教授よりの研究指導を受けていきました。さらに、修士論文や博士論文をまとめるため、時間や場所を工夫して研究活動を行い(情報システム分野はコンピュータさえあれば研究できますので、その点は助かりました)、研究成果について、学会発表を行ったり、学会誌への論文投稿を行ったりしてきました。このような事柄を経て、無事に博士論文が形になり、博士号の学位記をいただいたときには、感無量でありました(そして、博士号を取得する直前に高校を退職し、大学教員へと転進いたしました)。

こういった私の経験は、まさに、今、皆さんが学習されている状況とよく似ているのではないでしょ

うか。私は、今述べてきました自分の経験を生かして、皆さまのお手伝いができるのではないかと考えています。専門分野のお手伝いは勿論、一般的な修学上のお手伝い(社会人学生としてのお悩み相談…)もできるのではないかと自負いたしております。どうぞ気軽にお声がけいただければと思っております。

また、在学生の方に「同窓生」でもある(すなわち、一回以上ご卒業・ご修了された方)が多くいらっしゃる事実にも驚いております。そのような学生さんから、「先生、大学は卒業するものではなく、在学するものだよ!」と伺ったことがありました。私は普段大学を職場にしている者ですので、大学という「場」について強く意識しなかったのですが、そのお言葉に開眼する思いがいたしました。学び続けることの素晴らしさを改めて実感した思いです。皆さん、これからも、学び続けていきましょう!

鑑真について考える

浜松同窓会会長 小倉康弘

★当時の日本仏教界の状況

日本列島に仏教が伝えられたのは、538年のことです。(日本書紀では552年)それから200年近く、仏教は朝廷や豪族、貴族の信仰を得て、確かな地位を築きます。当然多くの僧尼が生まれ、寺院も建立されました。すでに推古朝の終わりごろ(624年)でさえ、寺院は46箇所、僧は816人、尼は569人と数えられています。僧尼が1385人といっても、戒律という基準にてらして、彼らが本当に僧尼といえるかといえば、そうでは無かったようです。これは列島では僧団というものが成立しておらず、戒律に沿って営まれる僧尼の世界が成立していなかったのです。

これは、仏教公伝直後のスタートの時点で変則的な状態があったようです。それは、最初に出家したのが若い女性で、年齢も若く段階を踏むこともなく一足飛びに受戒を行っているという、まさに戒律を無視した出来事でした。その後も律の定めからはずれた受戒があったようです。

こうした状況を朝廷でも気にかけていた節があり、大化元(645年)8月に、十師という僧職が置かれたのは、その現れといわれている、これらの主だった人々を核に、受戒制度を打ち立て、運用していこうと考えたようです。天武朝の末になると「日本書紀」に「三綱律師」「和上」(朱鳥元688年正月、6月)などの職名が現れます。これらは受戒の師とみてもおかしくないものなので、受戒の制度が機能していたとする意見もありますが、たとえ制度が整えられても、これが本当に機能していたかどうかはわかりません。

★国策による仏教の受け入れ

列島での仏教は、多分に上からの奨励で広まったという性格を持っています。信仰がいつとなく伝わって、自然に広まっていったわけではないのです。したがって僧団がおのずから形成されて、政権と対立することもなく、本来、自発的に運営されるはずの戒律も、朝廷から押し付けられる側面があったといえよう。そのような環境では、戒律への理解や積極的な受け入れは進みにくいはずで

★行基集団やその他の僧尼の行動

養老元(717年)に行基のことが「続日本紀」に現れます。小僧行基らが、民衆の間で布教し托鉢して回っているのは、令に違反している行いなので、禁止するというのが主な主旨です。行基とその集団の行動が檜玉に上がったのは、彼らが僧尼令に違反しているというだけではなく、当時かってに出家するものが増え、生業を捨てる人々が広がることは、僧尼が租税負担を免ぜられた存在で有るだけに、国家として放置できないことでした。

★鑑真を招請の原因

このような状況のなかで、戒律を本格的に導入するために、戒師が必要だという認識は、留学を経験

した一部の僧だけでなく、朝廷全体に広がったに違いない。朝廷は、天平2(731)年8月詔勅を発し、戒師詔請のため興福寺の僧、栄叡と普照が開元21(733)年入唐し、鑑真に來日を要請しました。その後、紆余曲折を経ながら、天平勝宝5(753)年12月20日薩摩の秋妻屋の浦に鑑真は漂着しています。

★鑑真の業績

鑑真は聖武天皇から、受戒と戒律の伝習に関して一任を受けました。日本到着早々、大仏の前に戒壇が築かれ、授戒を執り行いました。その後、いろいろな困難を経て、鑑真たちの説く戒律こそ本当の戒律なのだという観念が広まっていきました。

ただ、反面大きな限界も有りました。戒律が僧団の掟であり、僧団を自治的に運営していく上に欠かせないものであっても、その研修の場として設けられた唐招提寺でさえ、希望者を受け入れるだけに過ぎません。いきおい授戒は、官僧に資格を認める手続きになっていきました。本格的に導入された授戒と研修も鑑真の來日から100年ほど経った頃には急速に形骸化が進んでしまいました。かといって鑑真が日本の仏教と文化に多大の影響と貢献を残しているといわれています。

★鑑真から最澄へ

鑑真がもたらした天台宗の経典で学んだ最澄の学問は、その後の日本の仏教諸派の母体となり、法然、親鸞、道元、日蓮といった宗教者を輩出しました。

★鑑真は、最盛期の唐から文化・文明をもたらし、日本文化に大きな貢献をした

○日用品と経典…食料その他の日用品、経典・典籍、仏像、仏具・調度、香料・薬物

○渡来工人与盛唐の文化…

玉作人—ガラス工芸の工人／画師—画家／雛壇師—白壇などの彫刻を行う工人／彫鏤師—金属に彫刻を行う工人／鑄師—鑄物工人／写師—書物などを写す職人／繡師—刺繡の職人／敷文せん碑工—石に文字を配置し、碑に彫る工人

○医療を行う

鑑真が渡航に準備した香料や薬物については、鑑真自信、医療の心得があったことが想像されます。

【参考文献】「鑑真」東野治之著 岩波書店

藤枝・焼津方面 蓮華寺池公園ウォーキングに参加して

(静岡同窓会懇親ウォーキング)

仲塚 とし子

蓮華寺池公園では、花の終わってしまった藤の棚を見て、少し残念に思いましたが、池の蓮の花に心が和み、親子連れで賑わう公園内の五月を満喫しました。

となりに建てられている藤枝市郷土博物館を覗き、蓮華寺池を舞台化した作品「逸民」で川端康成文学賞を受賞した小川国夫に関する資料を興味深く見て回りました。作家が蓮華寺池周辺を散策し、作品の構想を練っていたのかもしれないと思うと、文学的な雰囲気も感じられます。

田中城跡では、徳川家康が鷹狩りに訪れていた事を知りました。磐田市にある御殿遺跡にも家康が鷹狩りの際に立ち寄り宿泊しましたが、どこに行っても家康ゆかりの史跡があることに驚きを隠せず、また今川、武田、徳川と返還を続けた戦国時代を通り抜けてきた城造りもうかがえました。

最後に焼津の海が気に入り、休みの間滞在していた八雲の生涯を資料や映像で見ました。焼津の海に故郷を重ね、多くの作品を海外に送り出したのでしょうか。

5月というのにちよっと真夏並みの暑さの中、静岡同窓会の皆さんの準備や手配がいき届き、藤枝や焼津を知る良い機会となりました。

会員紹介

本年度も多くの方が浜松同窓会に入会されました

名 前	住 所	名 前	住 所	名 前	住 所
鈴木 眞喜子	磐田市	仲塚 とし子	磐田市	安松 和男	浜松市中区
後藤 淑子	浜松市東区	小笠原 敏弘	浜松市中区	松下 安延	浜松市北区
大石 純子	浜松市中区	小倉 康弘	浜松市中区	萩原 利行	掛川市
岡本 康子	浜松市南区	古橋 達也	浜松市北区	小島 邦弘	浜松市南区
平成22年度入会		山本 勝司	島田市	中村 岩子	浜松市西区
鈴木 正男	浜松市北区	鈴木 民江	浜松市浜北区	赤堀 庄司	掛川市
小松 武夫	浜松市浜北区	長嶋 孝行	御前崎市	馬淵 和美	浜松市中区
横田 典子	田原市	豊田 宣子	湖西市	鈴木 尚	豊橋市
藪下 径子	浜松市東区	井口 徳久	浜松市南区	澤木 宏子	浜松市中区
小宮山 ひろみ	磐田市	大島 充裕	浜松市西区	服部 昭子	袋井市
松本 健太郎	豊橋市	小田切 さつき	浜松市東区	河合 京子	浜松市中区
枘本 裕士	浜松市天竜区	鈴木 通代	浜松市西区	鈴木 朝子	浜松市中区
尾藤 登	浜松市東区				
平成23年度入会		松本幸子	磐田市	大坪秀雄	浜松市天竜区
藤城佐知子	田原市	本多佳子	浜松市南区	太田浩一	浜松市浜北区
林本和俊	浜松市中区	久米定夫	浜松市中区	小宮山眞知子	浜松市中区
平野正樹	浜松市浜北区	井口麗子	浜松市中区	朝比奈裕美	島田市
河合勝仁	浜松市中区	小林正孝	浜松市東区		
平成24年度入会		柴田 健市	焼津市	平野 忠	愛知県新城市
坂本 政則	浜松市浜北区	鈴木 敏美	浜松市西区	紙谷 稔	浜松市浜北区
石塚 健一	浜松市中区	佐藤 剛	磐田市	早崎 浩子	島田市
伴 純雄	湖西市	佐藤 一	浜松市中区		
平成25年度入会		渡辺晴俊	浜松市東区	近藤千恵子	浜松市北区
齋藤善彦	浜松市中区				

学生募集

放送大学では、夢を実現させるべく入学される方々を
心から歓迎しています。

放送大学総合受付

☎ 043-276-5111

FAX 情報サービス

☎ 043-211-8351

放送大学ホームページ

<http://www.ouj.ac.jp/>



「受」と「授」について……学位授与体験から……

小笠原敏弘

私は平成21年12月20日に、ある建物の前で若者達に交じり開門時間を待っていました。費やした足跡を振り返りながら、最後の締めくくり、小論文試験に臨むためです。折しも、新型インフルエンザの驚異的な流行により、会場入り口でマスクを渡されました。この建物の名称は独立行政法人大学評価・学位授与機構(機構)と呼ばれ、東京都小平市の一橋大学小平国際キャンパス内の一角に建っています。放送大学多摩学習センターがすぐ隣にあります。機構は大学以外で学位を授与する国内唯一の機関として平成3年7月に創設されたもので他の諸外国にも同様なものがあるようです。従来、学位とは「修士」号、「博士」号、を指し「学士」号は称号とされてきましたが、1991年の学位規則等の改正により、学位として位置づけられました。(*)その後も準学士が短期大学学士に変更されたように、顕著に進む国際化に対応して改正されています。

機構の役目のもうひとつとしては大学の評価事業も担っています。桜の季節になると入学を祝う光景をよく目にします。まさに新たに勝ち得た道へのスタートの時期であると同時に、目的に大きく近づくことが出来ます。これは長く続くわが国の慣例によるもので、すなわち合格することにより扉が開き、一定の期間所属することが許され、そして決められたカリキュラムを経れば卒業を条件に、学位を手にすることが出来るからです。ところが機構の方はこれとはかなり趣が異なり、複数の所属機関で得た単位を組み合わせ、卒業の有無に関わらず学位を与えてくれます。よって、ここでは、入学式はもちろん、研修のための海外留学や大学間の対抗試合もありません。当然、学友会や同窓会なども芽吹くこともありません。比較すると尽きないなかに、ひとつ厄介な壁が申請者に立ちまだけかっているだけです。

その前に、機構は何故呼び名を審査機構にせずに授与機構としたのでしょうか。「授与」は一般には学位記授与式などのように、単なる「受け渡し」と受け止めていたからです。ささやかな疑問を見逃すわけにはいかないので、チェックしたところ、「授」と「受」の関係が目にとまりました。それは、「授」と「受」をくっつけた「授受」と、まえ後ろをひっくり返した「受授」の存在です。漢和辞書などでは「受」そのものの説明記述も違ってきます。少し遡って見たところ結果は要するに、もともと「授」も受けるという意味に使われていた時期があり、のちに分離し、「与」の字と結びついて「授与」がつくられた。記述違いの原因は、過去の使われ方によるものでした。時代の変化に対応して、「受」は、受験、受賞、受益、というものになり、「授」の方は、授与以外に、授業、授賞、授乳など、対応する語を取り込みながら、役割を分担しました。用例を重んじる漢和辞典とは違い、国語辞典のほうでは「授受」の並びのほうに軍配を上げています。また、日本の「授与」も、お隣の中国では「授予」となり同じではありません。しかし、何故、授与にしたかには至りません。

機構への申請もこのような確認作業が重くのしかかってきます。何をどのように判断するかも審査の対象になっているからです。具体的な例として、専門科目と関連科目の違いに始まり、外国語と外国語学の違い、文学と言語学、言語教育の違い、文化と思想、哲学の違い、比較文化と地域研究の違い、歴史学と文化人類学の違い、購読、研究、演習の違いなど一つ一つおさえなければなりません。放送大学の科目も実際に、基礎科目を専門科目としてつかうことができたように、組み合わせ如何では、“魚の水を得たるが如し”、おいに活躍させることが出来ます。そしてもう一つ、機構内部は布帛(ふはく)によって仕切られた帳のように、どなたが携わっているのかも分かりませんし、もちろん採点結果や平均点もありません。ところが、このような経験から意味が少しずつ解ってきました。機構の「授与」とは、詳細な自己判断で提出されたものをそのまま受け取り、そして一つ一つ確認して、間違いがなければ、再び、のせものと一緒にさすだけ渡す準備をする(授与)。ここで一区切りされます。締めくくりは当然、授与式そのものも省かれているので手段は郵送です。したがって、授け渡すものが、「授与」という語彙以外では表せないことによって使われているのであって、渡す行為(Ceremony)そのものの関与は薄いと理解すべきでしょう。ここでも意味範疇の違いを垣間見ることができるのです。

(*)【参考文献】 牟田博光『変わる社会と大学』放送大学教材1997年3月20日発行

第1回 楽卒勉強会報告書

日時 平成25年5月18日

場所 クリエイト浜松 5階 会議室

参加者 20人

内容 静岡学習センター所長 高木敏彦 先生「みかんの話」を聞いて

オレンジには、カンキツ属・キンカン属・カラタチ属があり、静岡県などの温州みかんや紀州みかんは、キンカン属に分類される。国内の生産高は、平成19年に和歌山17%、愛媛15%、地元静岡は14%となっている。産地の立地条件としては、園地の前面に湖、川、海がある、傾斜地が適しているようだ。

みかんは、成熟の時に雨が少ない時はおいしくなる。なぜかといえば、ストレス(水分不足)をあたえると細胞が糖を蓄えようとするからで、盆栽など水が限られているものについても、糖度が上がる。逆に成熟の時に雨が多いとまずいみかんとなる。

みかんに含まれるビタミンAは、疲れ目に有効なばかりでなく、抗酸化や発がん抑制、骨粗鬆症の予防に欠かせない。消費者のくだもの離れが聞かれ、消費量が減っているみかんだが、食後のフルーツとして見直したい。

伴 純雄 氏「私の学習体験」を聞いて

工業高校を卒業後矢崎総業(株)に入社、定年後放送大に入学し、関連会社に契約社員として働きながら、勉強を続けられた。工業高校出身ということもあり、歴史や文化などの教育から離れたが、海外でのプロジェクトの参加や外国人との交流の中で、日本の歴史・文化を基本としたアイデンティティの向上を強く感じられたということだった。

入学後は、勉強時間の不足や奥様の病気などの難題が発生した。その後高齢のお母さんと奥様が亡くなられ、しばらくは勉強も手につかず気持ちも落ち込んでいったところ、子供達の励ましにより、少しずつ勉強に取り組めるようになった。

勉強法といえば、英語科目のCDを聞きながら運転通勤し、職場に早出して仕事の始まる1時間半を勉強に集中し、出張でも常にテキストを持参した。そして、4年でめでたく卒業された。

卒業式・謝恩会で即同窓会に入っただき、現在も大学・大学院で勉学を続けている。

このような経緯とともにお話をしてくださった、矢崎総業での「仕事の話」が実におもしろく、浜工を卒業されてから、専門分野で活躍されてきた自信と誇りのようなものを強く感じた。退社されても仕事については周りから頼られる人材であり、これからも活動の場は広がっていくであろうことを確信した。

記録者 仲塚とし子

放送大学同窓会「北陸・東海ブロック交流会」が3月8日・9日に愛知学習センターで開催されました。連合会役員・石川・富山・静岡・福井・浜松・岐阜・三重・愛知の各同窓会による活動紹介が行われました。翌日には、ボランティアさんや愛知同窓会会員によるガイドを聞きながら名古屋城を見学しました。平成26年度も検討中ですから、会員の皆様もぜひご参加ください。



第2回 楽卒勉強会報告書

日時 平成25年10月27日

場所 クリエイト浜松 放送大学浜松サテライト会議室

参加者 18人(学部生および再入学生15人 卒業生3人)

内容

修学上の問題について多岐に渡る、興味深い前向きな意見が出ました。議論が集中したのは、以下の件でした。

話題提供者

夏・冬の定期試験の形式の最近の傾向としてマークシート 10問形式が多いがその形式は適当と思われるか。

それに対する意見。

- 1 10問では1問10点となり、全体的に良く勉強したつもりでも、1~2問のケアレス・ミスで不合格となる場合も想定され、リスクが大きすぎる。
ある大学の定期試験では、一時間に40問をマークシートで解かせる例もある。
- 2 10問では1時間の試験時間をもてあまし、大半の学生が30分以後退場し、最後まで会場にいる学生は極めて少ない。今のありかたでは、1時間の試験時間の設定の意味が薄れている。
- ③ 以前は20問の試験が多かったが、何故10問に減らしたのか。誰の都合なのか。コンピューター処理速度の問題か、今の高速コンピューターならば処理時間はさほど変わらないと思うが？
教官の意見なのか？
- ④ 1時間ならば、1題5点にして20問程度は出題してもよいのではないかとの意見が大勢からでました。

その他の意見

外国語課目で、課目履修で単位をとる場合と、面接授業で単位を取る場合の難易度の差が大きすぎる。面接授業では出席点で単位が取れてしまうが、課目履修では、長時間、努力して勉強しても試験で不合格になる危険性があり、課目履修はリスクが大きすぎる等の意見が出ました。又、外国語のほか、すべての面接授業で終了試験を課したほうが良い。今の面接授業は単位が安易に取れすぎるという意見も出ました。

読者の皆様も夫々の意見をお持ちでしょう。発言者の皆様の放送大学をより良い大学にしたいという熱い思いから出た意見と思われまます。

問題提起として記事にしてみました。

記録者 楽卒勉強会幹事長 小島邦弘



会報発行にあたり、原稿をお寄せくださった皆様ありがとうございます。同窓会では、これからも学生支援の活動を続けていきます。いろいろな行事にご参加いただき、ご意見などお寄せください。